



2013 年度 事業報告

特定非營利活動法人
SEEDS Asia



SEEDS Asia (シーズアジア)とは？

SEEDS Asia はアジア太平洋地域において、環境問題の改善や防災ならびに災害救援に関する事業を行い、これらの事業を通して、社会全体の持続可能な発展や人間の安全保障の確保に寄与することを目的としています。

組織の特徴

- 防災、環境、開発分野の若い専門家集団です。国籍もさまざまです。
- 学際的なアプローチで防災や環境問題に取り組んでいます。
- アツイところとクールなあたまで活動しています。
- アジア太平洋地域に特化した活動をしています。
- 神戸を拠点にしていますが、多文化な環境で仕事に取り組んでいます。
- 現地の社会経済状況、文化、政治的背景に配慮することを心がけています。
- 地元の知恵や知識・ノウハウを最大限利用し、地域にあった解決策を模索します。
- 現地カウンターパートと強い人間的ネットワークと相互信頼を築きます。
- 問題の発見とその解決策は当事者である地元の人々主導でおこないます。
- 研究、教育、プロジェクト実施が相乗効果的につながることを目指しています。
- 持続的で革新的なアプローチを取り入れています。

活動分野

- コミュニティベースの災害リスク管理
- 防災と環境教育
- コミュニティベースの気候変動への適応
- 都市のリスク問題: 環境管理や防災（廃棄物管理、水資源管理）
- 人間の安全保障と持続可能な開発
- 貧困削減と防災
- 災害と環境管理に関する研究と政策対話

活動実施体制

SEEDS Asia では理事会が団体の方針や事業計画を策定し、必要に応じて顧問から事業に関するアドバイスを受けています。そして、計画に基づき、事務局が事業を実施しています。神戸の事務局本部の他に、実施事業各地にプロジェクト事務所を設置し、日本人スタッフがローカルスタッフとともに事業を実施しています。



もくじ

1. 2013年度の主な活動報告

① 人材育成事業	3
② 知識の普及事業	11
③ その他の事業	12

1. 2013 年度の主な活動

① 人材育成事業

プロジェクト名	ミャンマー における ESD 推進のための防災教育支援事業(第2年次)
事業国	ミャンマー
事業期間	2013 年 5 月～2013 年 9 月
カウンターパート	ミャンマー工学会
助成団体	文部科学省 政府開発援助ユネスコ活動費補助金
受益対象者	対象学校教員、生徒、住民、政府・行政職員、防災・教育関連/機関

本事業は、自然災害に対して脆弱性の高いミャンマー連邦共和国における、ESD 及び防災教育の普及と推進を目的に実施したもので、学校教員の防災教育能力の向上を図りつつ、子どもや地域住民の防災能力向上に向け、地域と学校の連携を強化する活動を実施しました。さらに、本事業では教育改革の渦中にある当該国の状況を踏まえ、新しい教育施策の検討の際に ESD の視点を考慮してもらえよう、ESD を実施する国内外の優良事例校や政策を紹介するとともに、教育省をはじめ関係省庁・機関に ESD と防災の理解を深めるための研修等の機会を設けました。

具体的には、1)2012 年度 SEAMEO-ESD Award の最優秀賞を受賞した ESD と防災教育の実践事例について国内外との情報共有をより一層促進するために行った「クンジャンゴン校との交流活動を通じた災害の経験と教訓の共有」や、2)政府レベルでの ESD と防災教育に関する先進的な技術・知見の共有とローカルレベルでの具体的な技術や教材の提供などによる理解促進を目指し「政府・教育関係者の ESD 理解促進のためのワークショップと ESD 冊子の翻訳・配布」を実施しました。また、草の根レベルでは、3)前年度事業で対象としたデルタ地域の学校及び周辺地域の連携強化を図り、防災教育と ESD の推進に向けたモデル地域とすべく、「デルタ地域での学校との連携によるコミュニティでの水上移動式防災教室」を行う一方で、4)まだ防災教育の経験がなく、さらには地震リスクの高いエリアにおいては、「ユネスコ防災教材「リソース・パック」の活用による移動式防災教室」を実施し、防災教育機会の提供と能力の向上を図りました。

※2013 年 8 月にミャンマーで開催された「ESD 理解のためのワークショップ」の一部は、ヤマサ醤油株式会社様よりご支援頂きました。



消火器を実際に使って、初期消火訓練をする生徒

プロジェクト名	災害危険地域における防災能力向上支援プロジェクト
場所	ミャンマー
期間	2013年10月～2016年3月
カウンターパート	ミャンマー工学会
助成団体	JICA 草の根パートナー事業
受益対象者	対象学校教員、生徒、住民、政府・行政職員、防災・教育関連/機関

ミャンマーにおける学校、地域住民の防災能力(意識と知識、技術)向上を図るとともに、防災活動が持続的に運営される仕組みをモデルとして構築することを目指した事業を2013年10月よりヤンゴン地域、エヤワディ地域を対象として開始しました。本事業はミャンマーにおける防災教育支援の段階として「広げる支援」から「根付かせる支援」への移行期にあたるものと位置づけています。10月末には事業のキックオフワークショップをエヤワディ地域のパテインで開催しました。

これまでにトラック型陸上、船型水上移動式防災教室を用いて6場所5区を訪問し、各地で区防災委員会メンバー(計42名)と教員(計153名)に基礎的な防災研修を実施しました。防災研修受講者の意識と知識向上を計る修了試験で目標指標値を達成したことが確認できています。各地区の事業対象校では研修を受講した教員を通じて、生徒(計1512名)や学校周辺の地域住民(計112名)へ防災教育を実践するなど、学校と地域の連携が促進される基盤づくりの機会が提供されました。

各地区における持続的な防災活動を実施するために設ける「防災活動センター」については、クンジャンゴン区を先例とし、同区区長を始め区防災委員会や学校防災委員会と協議を継続し、13名の防災活動センターの運営にかかわる「防災リーダー」が防災活動センタータスクフォースとして学校と地域から選出されるとともに同センターを開設するための場所も決定しました。また、地域防災活動を実施する際の教材一式となる「防災教育教材ツールキット」の内容を検討し、現在開発中です。



防災プログラムで発表する生徒たち



移動式防災教室に参加するクンジャンゴン・タウンシップ長



プロジェクト名	東日本大震災被災者支援事業
場所	宮城県気仙沼市
期間	2011年6月～2014年4月
協力団体	気仙沼教育委員会、気仙沼復興協会、ボランティアステーション in 気仙沼
助成団体	チャーチワールドサービスジャパン
受益対象者	対象地域の住民、教員、生徒、行政関係者、関連団体など

宮城県気仙沼市を中心に東日本大震災被災者支援事業を継続して実施しています。

防災教育分野では、気仙沼市教育研究員によるESD(持続可能な開発のための教育)の考えに基づいた防災教育の研究に対する支援を行いました。気仙沼市では、教員の中から毎年10名を教育研究員として委嘱し教育に関する研究をしています。震災後の2011年からは防災教育がテーマとなっており、その研究の一環として、三重県尾鷲市、兵庫県神戸市での視察研修を企画し、教育研究員が視察先の教育関係者と意見交換しました。研究成果は、成果発表会で気仙沼市の全教員向けに報告され、活発な意見交換がありました。教育研究員により開発された「防災学習シート」は、改良版を印刷し関係者に配布しました。また、気仙沼市の中学生を神戸市に招く防災視察研修を今年度も実施し、神戸の教訓を気仙沼市の復興へどのように活かすのか考える機会となりました。海外教育関係者との交流として、2013年11月の台風ハイエンで被災したフィリピンから行政職員ら3名を招へいし、気仙沼の視察とともに市教職員との意見交換の場がもたれました。

コミュニティ復興支援では、南気仙沼地域の17の被災自治会が集まって「南気仙沼地域記念誌」を編集し、2000部が配布されました。記念誌には震災前の写真や津波到達時の避難の様子などが掲載されています。また、演劇を通して郷土芸能や災害の歴史を学ぶという試みのもと、地元の演劇団と地元の郷土芸能団体による演劇プログラムが気仙沼市および仙台市で上演され、400名以上の観客動員となりました。SEEDS Asiaはこの公演に向けて、台本作成、演技指導を含む全般的な支援をしました。



気仙沼中学生の神戸視察



南気仙沼地域記念誌完成懇親会



プロジェクト名	ベトナム中部の学校を中心としたコミュニティ防災力の向上支援 (第2フェーズ)
場所	ベトナム ダナン市
期間	2011年9月～2013年9月
カウンターパート	ダナン市教育訓練局 (DOET)
助成団体	国際協力機構(JICA)草の根パートナーシップ事業
受益対象者	対象学校の教員、生徒、コミュニティ住民

ダナン市すべての郡(7つ)に防災拠点学校を設置し防災教育の実施に必要な人材や教材を配備し、その防災拠点学校が先行モデルとなり、ダナン市すべての学校から2名ずつ防災教育研修を実施し、ダナン市全域で防災授業を実施できる教員が配置されることを目標とした事業です。事業最終年の今年度は、拠点学校教員への防災教育研修とそれに続く防災教室の後、各郡の教育訓練局職員、防災拠点学校の教頭及び教員が研修講師となり、フエ・クアンナム省の教職員(計81名)、ダナン市教育大学の教員・学生(計46名)及びダナンの141校の教頭及び教員に対して防災教育研修を実施しました。事後アンケートではこれら参加者のうちほとんどが研修後防災教育の実施を予定していると回答しました。防災拠点学校には、それぞれ災害模型や防災教育用副教材を設置し、災害の仕組みをいつでも学べるようになったほか、教員による教材コンテストを実施するなど教育関連政府職員や教員のモチベーションを上げる活動が臨機応変かつ効果的に行われました。また、上記の活動を通じて現地の防災教育に適した防災教育モジュールとハンドブックが新たに開発され、今後彼らが自主的に活用できるよう最終ワークショップにて配布しました。

最初は「防災教育って何?」と疑問をもっていた教員たちが、最後には「引き続きどのような防災研修や防災教育を行うべきか?」と考えるまでに意識が変わるなど現地で大きな成果が見られました。このような成果を受け、ダナン市人民委員会によって今後2年間の防災教育実施のための予算が確保されました。これにより現地での持続的な防災教育の一步が踏み出されました。



ダナン人民委員会と弊団体理事との会談



フエでの教員研修に参加した教員たち



プロジェクト名	ベトナム中部クアンナム省における学校を中心とする防災能力向上プロジェクト (第1次)
場所	ベトナム クアンナム省
期間	2013年12月～2015年11月
カウンターパート	クアンナム省教育訓練局(DOET)農業農村開発局(DARD)
助成団体	外務省 NGO 連携無償資金協力事業
受益対象者	対象学校の教員、生徒、コミュニティ住民、政府・行政職員、関連団体等

中部クアンナム省の6郡(ディエンバン郡、ホイアン市、ユイスイエン郡、タンビン郡、タムキー市およびヌイタン郡)にて、「学校を中心とした地域における防災能力向上支援事業」を12月から開始しました。2014年2月27日には最初の調整会議が開かれ、ベトナム教育訓練省(MOET)副局長やベトナム農業農村開発省(MARD)副局長、クアンナム省の教育局はじめ関連局及び教員の総勢74名の参加者がありました。本会議では、防災・気候変動対策に関する国家政策に基づく中央レベル、省レベル、郡レベルの取り組みについて情報共有がなされました。また、政府職員によって持続的な防災能力向上のための枠組みを立ち上げるために「防災教育・コミュニティ防災検討会」が結成され、今後は検討会メンバーと一緒に防災研修や防災イベントを開催していくとともに、防災モデル校及びモデル地域を決定するための調査を実施していきます。さらに、この検討会の指導のもと、防災モデル校の教職員を対象とした「防災教育ワーキンググループ」及び防災モデル地域の青年団・婦人会等を対象にした「コミュニティ防災ワーキンググループ」が設置され、生徒や住民に対する防災教育や地域防災活動が実施されます。本プロジェクトでも防災教育及び地域防災活動の持続発展性を目指すことから、先行したダナン市でのプロジェクトの成果や教訓を活かしつつ、クアンナムに適した活動を関係者とともに計画し実施していきます。



キックオフワークショップでスピーチする弊団体事務局長



第1回検討会の様子



日本ベトナム外交樹立 40 周年記念イベント

場所	ベトナム ダナン市
期間	2014 年 3 月
助成団体	日越 40 周年記念事業実行委員会
受益対象者	イベント参加者(日・越企業、現地在住日本人及び周辺住民)

2013 年度は、日本とベトナム間で 1973 年 9 月 21 日に国交が樹立されてから 40 周年に当たります。これを記念し、在ベトナム日本国大使館や関係機関によってベトナム各地で様々なイベントや式典が開催されました。この一環として、SEEDS Asia は、2014 年 3 月 15 日および 16 日に中部ダナン市にて災害リスク管理セミナーと、防災教育イベントを行いました。3 月 15 日に実施した災害リスクセミナーにはダナン市の日系企業やベトナム企業から約 40 社の代表者が参加しました。セミナーでは、中部高原地域風水害対策センターによるベトナム中部の災害に関する情報共有や、SEEDS Asia による災害リスク管理等の講義がなされ、参加者からは「他者が実施する企業防災に関する情報はとても有意義でした」などのコメントがありました。翌日 16 日には、ダナン市ファン・チュー・チン高校にて防災教育イベントを開催し、前年度で実施した防災事業で選出されたダナン市 7 校の防災拠点学校の教員 42 名による防災プログラムを実施し、約 250 名が参加しました。準備段階から当日の開催まで、ダナン市外務局、ダナン市教育訓練局、ファン・チュー・チン高校、ダナン市日本商工会及び日・越ボランティアスタッフの協力を得て、活気あるイベントを開催することができました。



吹き出しの豚汁を配る参加者

防災ゲームに参加する生徒

フィリピン 台風ハイエン被災者支援事業	
場所	フィリピン セブ州
期間	2014年1月～2014年4月
カウンターパート	教育省第7地方事務所
助成団体	(特活)ジャパン・プラットフォーム
受益対象者	被災対象地域の住民、対象学校教員、生徒、行政職員など

2013年11月にフィリピンを襲った台風ハイエンの被災地域にて、2014年1月から被災学校への学用品及び防災教材の配布や防災教育実施などの支援活動を実施しました。最初に被災地域を視察調査した後、特に学校の被害が大きかったセブ州ボゴ市、ダナオ市およびダンバンタヤーン町の学校で学用品と防災教材を配布しました。訪問先の校長先生が涙を流して歓迎してくれました。3月には教育省第7地方事務所の調整のもと、同地方事務所管轄内の19地区事務所の教育長を招いてSEEDS Asiaの実施中の事業内容を説明するとともに日本における東日本大震災における防災教育の教訓について講演を行い、参加者が熱心に耳を傾けていました。本事業は2014年4月で終了しますが、引き続きフィリピンで被災者支援事業を実施する予定です。



防災パンフレットの内容をみる生徒たち



配布された教材キットを手にする生徒たち



自然災害に対応した公共建築物の建設・改修能力向上プロジェクト

場所	バングラデシュ
期間	2013年7月～2015年3月
カウンターパート	バングラデシュ公共事業局 (PWD)
助成団体	n/a
受益対象者	行政職員、住民、学校教員、生徒など

バングラデシュは風水害などの気象災害が多く、その対策は政府や住民の努力により改善されています。しかし、地震対策については一般的に意識が低く、特に都市部では耐震性を考慮していない高層建築が次々と建てられ非常に脆弱な状況となっています。これを改善するため、JICAが公共建築物の設計管理などの責任を持つ公共事業局を対象に耐震改修の能力を向上させる技術協力事業を実施しています。

SEEDS Asia は 2013 年の第 3 年次からプロジェクト広報として専門家チームに参加し、関係省庁のみならず国民一般に広くプロジェクトを広報するとともに防災の必要性を理解してもらうための活動を実施しています。2014 年 1 月にはダッカ市内の 3 つの中学校で防災教育トレーニングを実施しました。トレーニングでは実際の地震の揺れのビデオ、地震発生メカニズム、防災対策、非常用持ち出し袋などを中心に話をし、防災教育教材を用いて地震の揺れに強い建築物と弱い建築物の構造を見てもらいました。

2013 年 4 月に起きたダッカ郊外の縫製工場崩壊(ラナプラザ)により、建物の安全性に対する意識は非常に高まっており、第 4 年次も引き続き活動を継続する予定です。



ダッカの中学校で防災教育トレーニングを実施



教材をつかって耐震構造を学ぶ生徒



② 知識の普及事業

プロジェクト名	防災イベント参加
場所	JICA 関西、他
期間	2013年8月から 2014 年1月



模型をつかって部屋の安全をおを確認する参加者

2013 年度は以下の 3 か所の防災イベントに出展し、「親子で学ぼう！お部屋の安全」(家具の固定について学ぶ)プログラムを実施しました。各イベントには子どもたちが多く参加し、家具を固定するなど防災の重要性を学ぶことができました。

① 2013 年 8 月 30 日、31 日、神戸市危機管理室

で行われた防災イベント「防災カフェ」、

② 2013 年 11 月 2 日、三木市ブルボンビーンズドームで開催された「ちびっこ防災イベント」

③ 2014 年 1 月 26 日 JICA 関西、人と防災未来センターで開催された「いざ！美カエル大キャラバン」

プロジェクト名	ワンワールドフェスティバル
場所	大阪国際交流センター
期間	2014年2月

2014 年 2 月 1 日、2 日には、弊団体 3 回目の参加となる大阪国際交流センターで開催された「ワンワールドフェスティバル」にブース出展しました。2 日間でのべ 17500 人が来場し、幅広い年齢層の方に団体紹介や事業内容を説明することができました。



来場者に SEEDS Asia の活動紹介



③ その他の事業

広報活動	
場所	SEEDS Asia 事務所
期間	2013 年 4 月～2014 年 3 月

SEEDS Asia の活動を紹介し、より多くの方々からご支援いただくために、ホームページの定期的な更新、フェイスブックでの活動地からの情報発信、またニュースレターを隔月で発行しました。日本の新聞などで各活動が取り上げられたほか、2013 年 12 月には NHK「アジアに夢中」という番組でミャンマー事業が取り上げられました。

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

特定非営利活動法人 SEEDS ASIA
 全社

(単位：円)

平成26年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	3,883,088
現 金	36,092	前 受 金	23,199,523
普通 預金	23,126,233	預 り 金	149,569
現金・預金 計	23,162,325	未払法人税等	223,950
(売上債権)		流動負債 計	27,456,130
未 収 金	12,551	負債の部合計	27,456,130
売上債権 計	12,551	正味財産の部	
(その他流動資産)		【正味財産】	
前払 費用	4,990,533	正味 財産	1,125,279
その他流動資産 計	4,990,533	(うち当期正味財産増加額)	△368,687
流動資産合計	28,165,409	正味財産 計	1,125,279
【固定資産】		正味財産の部合計	1,125,279
(投資その他の資産)			
保 証 金	50,000		
敷 金	116,000		
投資その他の資産 計	166,000		
固定資産合計	166,000		
【繰延資産】			
繰延 資産	250,000		
繰延資産 計	250,000		
資産の部合計	28,581,409	負債・正味財産の部合計	28,581,409

活動計算書

特定非営利活動法人SEEDS ASIA

(単位：円)

自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日

I 経常収益の部		
1 受取会費	205,000	
2 受取寄付金	301,000	
3 受取助成金等	48,319,946	
4 事業収益	28,795,095	
5 その他収益		
受取利息収入	9,213	
為替差益	155,080	
雑収入	318,920	
経常収入合計	<u>318,920</u>	78,104,254
II 経常費用の部		
1 事業費		
(1) 人件費		
給与手当	26,186,886	
法定福利費	2,640,386	
福利厚生費	238,883	
(2) その他経費		
外注費	986,075	
旅費出張費	12,841,050	
会議費	163,854	
消耗品費	1,587,296	
通信費	801,885	
業務委託費	2,218,000	
支払手数料	944,413	
図書資料費	27,070	
トレーニング費	746,982	
印刷費	133,365	
現地事業費	25,399,564	
現地賃借費	1,762,253	
水道光熱費	197,769	
為替差損	154,701	
事業費合計	<u>154,701</u>	77,030,432
2 管理費		
(1) その他経費		
旅費出張費	29,140	
水道光熱費	87,443	
地代家賃	816,000	
保険料	12,490	
租税公課	265,031	
リース料	132,405	
諸会費	100,000	
管理費合計	<u>100,000</u>	1,442,509
経常費用合計		<u>78,472,941</u>
当期経常増減額		<u>-368,687</u>
当期正味財産増加額		<u>-368,687</u>
前期繰越正味財産額		<u>1,493,966</u>
当期正味財産合計		<u><u>1,125,279</u></u>

SEEDS Asia 事務局

〒658-0072 兵庫県神戸市東灘区岡本2-11-21-401

Tel: 078-766-9412

Fax: 078-766-9413

Email: rep@seedsasia.org

Website: <http://www.seedsasia.org>

Facebook: <http://www.facebook.com/pages/SEEDS-Asia/206338119398923>